

大相撲巡業「名水の里 佐野場所」



4月9日(日)、運動公園市民体育館において、大相撲巡業「名水の里 佐野場所」が開催されました。この日は市内外の相撲ファン約2,600人が会場に訪れる「満員御礼」のなかで開催され、訪れた方々は横綱白鵬や、各大関陣などの相撲を楽しんだほか、まわしを締めた市内の子どもたち30人が新大関鶴竜、幕内力士高見盛らに胸を借りる、子ども稽古などを楽しみました。

子ども稽古では、子どもたちが3人かかりで力士に挑んだものの、力士たちは軽々と片手で持ち上げ、土俵の外に送り出していきました。しかし、中には力を合せ、見事力士を押し出した子どもたちも。力士たちに果敢に挑んだ子どもたちに、会場から惜みない声援と拍手が送られていました。

前園さん、子どもたちを指導

4月7日、運動公園多目的球技場の人工芝化を記念した、佐野市体育協会主催・サッカー協会の主管によるサッカーフェスティバルが開催されました。

この催しには、サッカー元日本代表の前園真聖さんが招かれ、前園さんは小中学生約300人を相手にミニゲームを楽しみました。

前園さんは子どもたちに声をかけながら笑顔でプレーしましたが、多くの子どもたちに囲まれながらも軽やかにかわしていく、現役当時を彷彿させる鋭いドリブルを披露し、見守っていた指導者・保護者たちからは感嘆の声が上がりました。



プレー後、前園さんは子どもたちに「コーチの話をよく聞いて、そしてサッカーをさせてくれる両親に感謝してプレーしてください」と語りかけました。



佐野ブランド大使
ダイヤモンド☆ユカイさん

4月15日(日)、市内のホテルで、ダイヤモンド☆ユカイさんの佐野ブランド大使就任一周年を記念する「ユカイなトークショー&お茶会」が行われ、会場を訪れた約268人が、ユカイさんのトークや抽選会を楽しみました。

トークショーでは佐野ブランド認証品であるお菓子が共演した芸能人に好評であったことや、愛娘である「ニーチェ」ちゃんのエピソードなどが和やかな雰囲気でお話され、終盤にはユカイさんが歌う、トイ・ストーリーでおなじみの「君はともだち」をその場で披露してくれるというサプライズも。また、会場からの「さのまるの歌を作って欲しい」という要望には「正式なおファーをいただければ、もちろん」と笑顔で応えていました。

抽選会の後には訪れた方々全員と、「ギラッチ！」の掛け声とともに記念撮影を行い、皆さんとしっかり握手をしてお別れし、ショーを締めくくりました。

佐野ブランド大使就任一周年記念
「ユカイなトークショー&お茶会」

市内各地で綺麗な花々が咲き誇りました

3月の終わり頃から4月の終わり頃にかけて、市内各地で綺麗な花々が咲き誇りました。



▲カタクリ
▼満開の桜



今年は暖くなるのが遅く、それぞれの花の開花が遅れていましたが、3月の終わりには市の花である「カタクリ」が万葉自然公園かたくりの里で開花したのをはじめ、梅林公園では梅が紅白の花々を、そして急に暖かくなった4月の第2週以降は市内各地でソメイヨシノが美しく咲きました。

それぞれの花が美しく咲き誇るのは、ほんのひとときですが、美しい花々に多くの方が心を躍らせていました。



市民記者が、あなたのまちのホットな話題をお届けします

注目

健康福祉

募集

催し物

お知らせ

講座

話題

春を待ちわび雛人形展



葛生伝承館では、3月に雛人形展が開かれました。大正・昭和・平成の時代を経て、代々受け継がれてきた木目込人形や段飾りが約20点展示され、入館者の目を楽しませてくれました。

入館して右手には、埼玉県岩槻市のオリジナル人形として、雛人形とともに飾られていたという「袴(かみしも)人形」が鎮座。そして入館者の一番の目を引いたのが「押絵雛軸」という押絵で造ったお雛様。これは押絵羽子板に使われている技法と同じもので、掛け軸に差し込んで飾るといった珍しいもので、

思わず感嘆の声がもれてしまいました。

今回展示された人形は一般の方から募集したものが中心であり、持ち主の方々それぞれの思い出や愛情が、人形たちの表情に表れているようでした。

(市民記者 山崎ちか子)



マイチャレンジ

佐野高校附属中2年生の生徒105人は、3月5日から9日までの5日間、市内と近隣市の34カ所の事業所において職場体験学習を実施しました。

これは例年行われている中学生の社会体験活動です。さまざまな職場の中に何人かで行き、6時間程度の作業を体験します。初めて手に触れる物や、経験したことのないことに出会ったことでしょうか。それらの体験で、①人との出会い、触れ合いを通し社会の一員としての自覚を育む、②社会人として仕事・職業の喜びや厳しさを体験する、③将来や新しい自分について考え自分の生き方を想像する、④将来や新しい自分について考え自分の生き方を確認する、⑤自ら考え行動する力を身につける、などの目的で生徒たちは頑張り、ひと回りもふた回りも大きくなった様子で無事体験学習を終了しました。

(市民記者 葛貫育子)



佐野弁 ばんてい

草木の先端を ウラチヨツペという

木や草の先の部分を表す方言にウラチヨツペがあります。共通語の先っぽや先つちよとほぼ同じ意味です。

明治・大正および昭和初期生まれの人たちは、共通語を使うよりウラチヨツペを使うのが普通でした。

「インギンポー(隠元の蔓を支える棒、隠元棒いんげんぼうの訛)のウラチヨツペに、アキドンプ(赤とんぼ)がジーツトして止まってつけど、回りがよくメール(見える)からダンプ(でしよう)ねえ」

ウラチヨツペという語の成り立ちをみると、「ウラ」と「チヨ」と「ペ」が結び付いたもので、これらのいずれにも先端という意味が含まれています。まず最初に、「ウラ」はいつ頃どんな時に使われていたのか、その例を挙げてみましょう。

かつて佐野は麻の名産地でしたから、麻にまつわる方言や独特の言い方がたくさんありました。麻の葉の付いている先端の茎の部分をウラツツオといっていました。これは先端の意のウラ(末)とソ(麻)が結び付いた「ウラソ」(末麻)が変化したものです。今では農家の高齢者を除いては、このことばを知る人もなく、もはや死語になってしまったといってもいいでしょう。

「チヨ」は、先つちよの「ちよ」と同じく、先端の一部をいいます。これは「所(しよ)」が変化したもので、「先」や「末(うら)」という語の後に付けるのが普通です。「ペ」も語の後に付けて、先端の周辺という意を表します。

(市民記者 森下喜一)